

科目名	映像（放送）制作概論				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	72
授業概要、目的、 授業の進め方	1．映像制作の基礎からテレビ番組制作まで幅広い知識を得る。 2．台本作成・撮影・編集・MAの制作工程を学ぶ。 3．発想力、自主性、を作品制作を通じて身に付ける。				
学習目標 （到達目標）	①テレビ制作を学ぶうえでの心構えと、映像を学ぶうえで必要な基礎知識、スキルを身につける。 ②グループワークを通して、積極的なコミュニケーションを取れる人材を育成する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～4	テレビ業界研究Ⅰ		テレビ業界での必要な心構え、専門用語等の基礎知識を学ぶ		
5～9	テレビ業界研究Ⅱ		実際のテレビ制作の現場を見学する		
10～14	テレビ番組研究		テレビ番組の種類、現在のトレンドを研究する		
15～19	企画		いままでに無いテレビ番組を考え、企画書にまとめる		
20～24	企画Ⅱ		企画にまとめた内容をプレゼンテーションする。		
25～29	企画Ⅲ		プレゼンテーションした内容で学内コンペを行う。		
30～34	企画Ⅳ		コンペの内容をブラッシュアップする		
35～39	番組台本制作Ⅰ		企画内容にそった台本の制作を行う		
40～44	番組台本制作Ⅱ		企画内容にそった台本の制作を行う		
45～49	番組台本制作Ⅲ		企画内容にそった台本の制作を行う		
50～54	制作実習Ⅰ		台本の内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める		
55～59	制作実習Ⅱ		撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
60～64	制作実習Ⅲ		撮影スケジュールを決める		
65～71	撮影編集実習Ⅰ		台本にそった撮影・編集を行う		
72	作品上映会				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
企画内容60％、作品の完成度20％、出席率20％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			いかに柔軟な発想が出来るか、諦めずに実習に取り組む事。グループワーク一丸となりより面白い作品が出来るよう切磋琢磨する事。全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	映像制作業界経歴10年				

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2．演技メソッドの理解と実践 3．リアリズム演劇を理解する				
学習目標 （到達目標）	現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	俳優演技の基礎 1 体の使い方		トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
4～6	俳優演技の基礎 2 表情を鍛える		日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
7～9	俳優演技の基礎 3 呼吸法に対する意識		気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
10～12	俳優演技の基礎 4 シチュエーション		場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
13～15	俳優演技の基礎 5 感情表現について		感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
16～18	俳優演技の基礎 6 喜怒哀楽と老若男女		感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
19～21	俳優演技の基礎 7 アンサンブル稽古		集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
22～24	俳優演技の基礎 8 コロス		集団演技について		
25～27	演技発表 1（実技試験）		コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
28～30	演技実習 1 姿勢や発声で必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
31～33	演技実習 2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
34～36	演技実習 3 インプロ 1		反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
37～39	演技実習 4 インプロ 2		シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
40～42	演技実習 5 エチュード 1		場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
43～45	演技実習 6 エチュード 2		前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
46～48	演技実習 7 エチュード 3		エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
49～54	舞台公演（実技試験）		簡単な芝居を想定した舞台公演		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
発表に対する評価40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	ビジネス社会学				
担当教員	神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 企業のケーススタディーを中心に紹介する。 2. 企業が行った経営戦略を学ぶ。 3. 経営戦略から自身が考える授業を行う。				
学習目標 (到達目標)	1.企業の基本的経営戦略を学ぶ。2.様々なケーススタディーを学ぶことで自身の理論を組み立てることが出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ケースブック経営戦略の論理（日本経済新聞出版社 伊丹敬之・西野和美）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	企業経営戦略の基礎		SWOT分析・ポジショニング・経営戦略の基礎（商品戦 略・コスト戦略・差別化戦略）など		
4～6	戦略の顧客適合（麒麟ビール）		「ラガー」の生ビール化と歴史的逆転 P 5 4～P 6 5		
7～9	戦略の顧客適合（ドン・キホーテ）		驚きと感動を売る小売業 P 6 6～P 7 6		
10～12	戦略の顧客適合（花王）		市場を創造する商品開発 P 7 7～P 1 0 5（抜粋）		
13～15	戦略の競争適合（松下電器産業）		DVDレコーダーの断トツシェア戦略 P 1 0 6～P 1 1 6		
16～18	戦略の競争適合（船井電機）		低価格こそが武器（市場は米国に） P 1 1 7～P 1 2 5		
19～21	戦略の競争適合（三星電子）		日本企業の対米逆転・DRAM参入 P 1 2 6～P 1 6 1		
22～24	戦略のビジネスシステム適合（HOYA）		後発からトップシェアへのビジネスシステム P 1 6 2～P 1 7 1		
25～27	戦略のビジネスシステム適合（ミスマ）		購買代理店のコンセプトとその実現の仕組み P 1 7 2～P 2 0 3（抜粋）		
28～30	戦略の技術適合（島精機製作所）		メカトロニクスがファッションを提案する P 2 0 4～P 2 1 2		
31～33	戦略の技術適合（セイコーエプソン）		生産技術が事業展開をドライブする P 2 1 3～2 4 9（抜粋）		
34～36	見えざる資産（アスクル）		進化し続けるための情報蓄積 P 2 5 0～P 2 6 0		
37～39	見えざる資産（ローム）		見えざる資産の地道な蓄積 P 2 6 1～P 2 9 4（抜粋）		
40～42	戦略の資源適合（ファンケル）		資源蓄積を利用した新事業展開 P 2 9 6～P 3 0 4		
43～45	戦略の資源適合（シャープ）		戦略が資源を蓄積し、利用する P 3 0 5～P 3 3 9（抜粋）		
46～48	戦略の組織適合（トヨタ自動車）		初の米国輸出でのオーバーエクステンション P 3 4 0～P 3 5 1		
49～53	戦略の組織適合（アサヒビール）		長期低迷企業の再生 P 3 5 2～P 3 8 0（抜粋）		
54	試験		範囲：これまでの授業範囲		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験30%、レポート30%、授業での発言20%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			各授業前に、教科書「経営戦略の論理」を読み込んで（指定あり）授業を受けて下さい。また、企業戦略を知るよりも、それを知ることで自身がどう考えたかが大事になります。授業では出来るだけ多くの発言を心掛けて下さい。		
実務経験教員の経歴	音楽業界・プロモーション部門7年 指導経歴10年				

科目名	イベントプランニング基礎				
担当教員	大崎 信行		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 小規模（キャパシティー２００名前後）のイベント企画・制作・運営を行える実務能力を養う。 2. 前期は企画から制作を中心に授業を展開し、後期以降はステージ舞台の基礎知識を養う。 3. まずは企画書が書けること。次にステージ舞台の制作運営がイメージ出来ること。				
学習目標 （到達目標）	小規模イベント（芝居・音楽ライブ）の企画制作が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	THE STAFF舞台監督の仕事（晩成書房 伊藤弘成）、その他プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	イベントの基本的構想		組織づくり・スタッフ選定・予算枠決定・会期会場の決定・広報と動員計画		
4～6	イベント目的の設定・基本的コンセプトについて		目的目標の設定・テーマの設定・展開実施プランの作成・会場演出レイアウト・イベント内容・PRプラン		
7～9	マスコミ媒体・PR媒体・DMその他		告知方法・媒体決定・PR手段・招待・入場券手配・リスト準備・アンケート調査		
10～12	会場・展示・告知ツール作成		会場構成・装飾施工手配・出展物リスト作成・搬入搬出計画・来場者誘導計画・届け出について		
13～15	全体運営管理・責任分担と進行チェック		最終チェックポイント・出演者の確認・各スタッフ確認・マスコミ対応など		
16～18	効果測定と評価・実施予算集計と報告書作成		問題点まとめ、PR効果チェック・予算報告・イベント全体の報告書作成・次回への記録、情報集約		
19～21	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット・内容の作成		
22～24	企画書作成（広告・動員計画）		誰に、どのように情報を伝えるか。どこへアプローチして設定された動員数を集めるのか。		
25～27	前期模擬プレゼンテーション		作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施		
28～30	台本作り		前期に作成した企画書をもとに台本作成を実施		
31～33	組織の在り方		プロデューサー・ディレクター・舞台監督・音響照明・美術など、それぞれの役割と関係性。		
34～36	舞台監督は裏の主役		イメージを現実に・舞台は危険がいっぱい・舞台監督は先を読み・スタッフは根 P 8～P 1 2		
37～39	芝居作りの基礎知識（舞台） 1		舞台各部の呼び名・幕について・場転について・迫りについて・舞台と客席の境に P 1 4～P 2 4		
40～42	芝居作りの基礎知識（舞台） 2		吊り物・照明関係の機構・床面について・装置を飾る P 2 5～P 2 8		
43～45	芝居作りの基礎知識（照明） 1		主な照明の名称と略号・生明かりは舞台の空気・シーリングとトップ明かり P 2 9～P 3 5		
46～48	芝居作りの基礎知識（照明） 2		明かりはフロントがポイント・バックは美しく・一条明かり・スポット・照明をあやつる P 4 2～P 5 0		
49～53	芝居作りの基礎知識（音響）		音も演技する・機材について・2C、2TC・音を広げる・耳で確認する P 3 7～P 7 3（抜粋）		
54	後期模擬プレゼンテーション		作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
プレゼンテーション前期・後期80％、学習意欲20％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			基本的な基礎知識が中心となるが、この知識が無いと舞台制作は出来ない。定期的に実施する舞台や音楽イベントを制作運営するためにも必要なことであるため、しっかり身に付けるようにして下さい。		
実務経験教員の経歴	イベント会場・企画制作 施設管理経歴15年				

科目名	ダンス実技				
担当教員	MIE（中野 美恵）		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい姿勢、舞台上で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。				
学習目標 (到達目標)	1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	ストレッチ		基本的なストレッチ。体のパーツを動かし確認。		
4～6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へと行う。		
7～9	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		アイソレーション。リズムをとりながらステップ。		
10～12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		ステップ、ボディコントロールできるための練習。		
13～15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		ピッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。		
16～18	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練習。		
19～21	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
22～24	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
25～27	テスト		グループ発表。		
28～30	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		前期の復習		
31～33	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)の課題。新しい振り付け。		
34～36	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。		
37～39	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
40～42	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
43～45	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
46～48	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
49～53	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
54	評価		課題曲に合わせて創作ダンス		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			進行状況に合わせながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴	HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。				

科目名	著作権				
担当教員	神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	著作権とは何か		イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的		
4～6	著作権で保護されるもの		著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
7～9	著作権は誰が持つ		著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
10～12	著作権の内容 1		著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持 権・一身専属性 教科書P31～P41		
13～15	著作権の内容 2		財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信 権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59		
16～18	著作権は誰が持ついつまで保護される		著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
19～21	他人の著作物は勝手に使えない		著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
22～24	勝手に使える場合がある		権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無 償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101		
25～27	著作物を伝達する者を保護する制度		著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放 送事業者）・隣接権保護期間 教科書P117～P129		
28～30	勝手に使うとどうなるか		著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
31～33	著作権に関する関連制度		知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
34～36	産業財産権とは		特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
37～39	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは		問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
40～42	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外		問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
43～45	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺		問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
46～48	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）		答え合わせおよび解説		
49～53	ビジネス著作権BASIC検定試験		直前に模擬テストおよび解説あり。		
54	評価		試験により実施（希望者は検定試験を実施）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努め ること。 教科書以外にも音楽ビジネスについての理解も深める。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー				

科目名	演技理論実技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2．演技メソッドの理解と実践 3．リアリズム演劇を理解する				
学習目標 （到達目標）	現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	俳優演技の基礎 1 体の使い方		トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
4～6	俳優演技の基礎 2 表情を鍛える		日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
7～9	俳優演技の基礎 3 呼吸法に対する意識		気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
10～12	俳優演技の基礎 4 シチュエーション		場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
13～15	俳優演技の基礎 5 感情表現について		感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
16～18	俳優演技の基礎 6 喜怒哀楽と老若男女		感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
19～21	俳優演技の基礎 7 アンサンブル稽古		集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
22～24	俳優演技の基礎 8 コロス		集団演技について		
25～27	演技発表		コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
28～30	演技実習 1 姿勢や発声で必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
31～33	演技実習 2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
34～36	演技実習 3 インプロ 1		反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
37～39	演技実習 4 インプロ 2		シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
40～42	演技実習 5 エチュード 1		場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
43～45	演技実習 6 エチュード 2		前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
46～48	演技実習 7 エチュード 3		エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
49～51	演技発表		発表会（エチュード）		
52～54	演技発表		発表会（エチュード）と総評		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	芸能ビジネス				
担当教員	岩佐 陽一		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 芸能プロダクション業務を正しく把握する。 2. 芸能プロダクションに仕事内容や契約を正しく理解する。 3. 前期は芸能プロダクションのビジネス的基礎知識を修得し、後期はケーススタディーから各プロダクションのビジネス手法を学習する。				
学習目標 (到達目標)	芸能界におけるタレントの仕事内奥や契約について正しい知識を修得する。自身に合った芸能プロダクションを知る。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	芸能プロダクションについて		タレント発掘・育成・マネジメント		
4～6	芸能プロダクションの仕事内容		プロデュースおよびマネジメント・価値を高めエンターテインメントの創造に寄与する。		
7～9	タレント発掘について		オーディション・コンテスト・売り込み・スカウトなど		
10～12	タレント契約について		専属契約・包括契約・その他、著作権上の契約		
13～15	芸能プロダクション所属とフリーランスの違い		企業とのパートナーシップ関係と個人での活動展開について		
16～18	芸能界における報酬について		歩合制か固定制か・売れてもアルバイトを続ける理由		
19～21	タレントの権利 I		パブリシティー権について		
22～24	タレントの権利 II		実演家が持つその他の権利（隣接権）		
25～27	○ 前期評価試験		前期学習した範囲の復習（記述）		
28～30	アナウンス系芸能プロダクションについて		セントフォース・オフィストゥーワン・圭三プロ・三柱・フォニックスなど		
31～33	俳優系芸能プロダクションについて		テアトルアカデミー・スターダスト・ホリプロ・ユニマテ・研音など		
34～36	音楽系芸能プロダクションについて		アミューズ・烏龍舎・エイベックス・ソニーミュージックアーティスツなど		
37～39	お笑い系芸能プロダクションについて		浅井企画・太田プロダクション・オフィス北野・タイタン・プロダクション人力舎・吉本興業など		
40～42	タレント系芸能プロダクションについて		サンミュージック・松竹芸能・ワタナベエンターテインメント・マキセ芸能社など		
43～45	声優ナレーター系芸能プロダクションについて		アーツビジョン・IAMエージェンシー・青二プロダクション・81プロデュースなど		
46～48	モデル系芸能プロダクションについて		シャノワールモデル・オスカープロモーション・プラチナムプロダクション・ジャパンモデルほど		
49～51	後期評価プレゼンテーション I		現存するプロダクションの特徴や他社との差別化された部分をパワーポイントにまとめ、発表を行う。		
52～54	後期評価プレゼンテーション II		現存するプロダクションの特徴や他社との差別化された部分をパワーポイントにまとめ、発表を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期評価試験30%、後期評価プレゼンテーション30%、企業レポート（全7回）30%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			後期以降、授業毎にレポート提出があります。内容は、各プロダクションに関する企業規模や内容です。評価基準になりますので忘れないように。		
実務経験教員の経歴	制作ディレクター 株式会社バッドテイスト社長				

科目名	ブランディング&SNSマーケティング				
担当教員	神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成				
学習目標 (到達目標)	自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	iPad・スマートフォンを使用 プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ブランド展開とは		選ばれる戦略		
2	市場リサーチとマーケティング		消費者の中の顧客		
3	宣伝とは		5 W1H・AIDMAの法則など		
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット		知名度に伴う誹謗中傷について		
5	Twitter・Instagram①		人気のあるSNSとは		
6	Twitter・Instagram②		フォロワー数をどう増やすか		
7	Twitter・Instagram③		どんな投稿をするべきか		
8	Twitter・Instagram実践		自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。		
9	Twitter・Instagram実践				
10	Twitter・Instagram実践				
11	Twitter・Instagram実践				
12	Twitter・Instagram実践				
13	Twitter・Instagram実践				
14	Twitter・Instagram実践				
15	Twitter・Instagram実践				
16	Twitter・Instagram実践				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			自身のスマートフォンを使用します		
実務経験教員の経歴					

科目名	PC&Webリテラシー				
担当教員	神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	ソフト・アプリケーションを使用した様々な作成実習 1. 画像・動画関係 2. 音楽・音響関係				
学習目標 (到達目標)	様々なソフト・アプリケーションを使用したコンテンツ作成が可能な人材育成				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	画像・イラストソフトについて①		illustrator・photoshop		
4～6	画像・イラストソフトについて②		illustrator・photoshop		
7～9	画像・イラストソフトについて③		illustrator・photoshop		
10～12	画像・イラストソフトについて④		illustrator・photoshop		
13～15	動画ソフトについて①		Final Cut Pro		
16～18	動画ソフトについて②		Final Cut Pro		
19～21	動画ソフトについて③		Final Cut Pro		
22～24	動画ソフトについて④		Final Cut Pro		
25～27	レコーディングソフトについて①		Protools		
28～30	レコーディングソフトについて②		Protools		
31～32	レコーディングソフトについて③		Protools		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！		
実務経験教員の経歴					

科目名	演技実習				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	140時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 本番を設定した上で制作過程を学ぶ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演・その他、スタッフとして関わりなど総合的に演劇公演を開催する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
7～13	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
14～19	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
20～25	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
26～31	企画書作成		内容		
32～37	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
38～43	台本作成		資料収集		
44～49	台本作成		基本的構成決定		
50～55	台本作成		ラフ台本		
51～56	台本作成		直し		
57～62	台本作成		完成		
63～68	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
69～74	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
75～80	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
81～86	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
87～92	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
93～98	稽古期間		音響・照明プランニング		
99～104	稽古期間		音響・照明プランニング		
105～110	稽古期間		音響・照明プランニング		
111～116	稽古期間		最終チェック		
117～122	リハーサル		会場入り（通し）		
123～128	リハーサル		会場入り（通し）		
129～134	ゲネラルプローベ				
135～140	本番				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	修了制作公演				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	研究科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	140時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 23日×6コマ+2コマ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演・その他、スタッフとして関わり				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
日数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
2	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
3	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
4	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
5	企画書作成		内容		
6	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
7	台本作成		資料収集		
8	台本作成		基本的構成決定		
9	台本作成		ラフ台本		
10	台本作成		直し		
11	台本作成		完成		
12	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
13	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
14	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
15	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
16	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
17	稽古期間		音響・照明プランニング		
18	稽古期間		音響・照明プランニング		
19	稽古期間		音響・照明プランニング		
20	稽古期間		最終チェック		
21	リハーサル		会場入り（通し）		
22	リハーサル		会場入り（通し）		
23	ゲネラルプローベ				
24コマ	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%			卒業評価の対象となります。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		i-MEDIAゼミ				
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象学科		研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のみに留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。				
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①			予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーチューバーなど		
3・4	スペシャルゲスト講師②					
5・6	スペシャルゲスト講師③					
7・8	スペシャルゲスト講師④					
9・10	スペシャルゲスト講師⑤					
11・12	スペシャルゲスト講師⑥					
13・14	スペシャルゲスト講師⑦					
15・16	スペシャルゲスト講師⑧					
17・18	スペシャルゲスト講師⑨					
19・20	スペシャルゲスト講師⑩					
21・22	スペシャルゲスト講師⑪					
23・24	スペシャルゲスト講師⑫					
25・26	スペシャルゲスト講師⑬					
27・28	スペシャルゲスト講師⑭					
29・30	スペシャルゲスト講師⑮					
31・32	スペシャルゲスト講師⑯					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
授業態度と出席率で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴						

科目名	発声				
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期 前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。			
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成テキスト			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
6	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
7	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
8	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
9	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
10	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
11	テスト			滑舌課題確認テスト	
12	外郎売			暗唱	
13	外郎売			暗唱	
14	外郎売			暗唱	
15	外郎売			暗唱	
16	テスト			外郎売テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。	
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む			

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング 1		イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
6	身体トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
7	身体トレーニング 7		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
8	身体トレーニング 8		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
9	身体トレーニング 9		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
10	演技トレーニング 1		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	テスト		テスト（身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能 力）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成 するつもりで臨んでほしい。日常のコンディショニングと常時 最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意 思を自覚すること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	歌唱				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	演奏				
担当教員	富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 各希望楽器を用いたアンサンブル授業 2. 各パートごとの練習、完成後にバンド演奏 3. バンドステージとして発表				
学習目標 (到達目標)	初心者でも楽器が演奏できるようにある。経験者でもより高度なテクニックを身に付ける。 最終的にはバンド形態で1曲以上、演奏が出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	楽譜などプリント対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	楽器の特性などを説明		ギター・ベース・ドラムス・キーボード		
2	パート分け		各楽器および経験の有無に分かれて練習を開始		
3	まず音を出してみる		経験者は初心者をサポートしながら楽器を演奏してみる		
4	課題曲① 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
5					
6					
7					
8	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
9					
10	課題曲① 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
11	課題曲② 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
12					
13					
14	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
15					
16	課題曲② 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題①発表30%、課題②発表30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			楽器は各自、ご用意ください。		
実務経験教員の経歴		作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数			

科目名	声優				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 日々行える声優トレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やプレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	映像				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 撮影・編集の基本的知識 3. スマホで撮影・編集・作品制作				
学習目標 (到達目標)	スマホで簡単に動画制作が出来ること				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	カメラ・編集機材の説明				
2	カメラ・編集機材の説明		使用方法		
3	撮影		撮影の基本的知識		
4	撮影		カメラワークについて		
5	撮影		サイズと照明効果		
6	撮影		10カット撮影してみよう		
7	編集		ソフトの選び方		
8	編集		カット編集の基本的知識（静止画）		
9	編集		カット編集の基本的知識（動画）		
10	編集		撮影した動画を自分で繋いでみる		
11	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
12	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
13	作品制作				
14	作品制作				
15	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
16	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			最終的には自身のスマホを使って自由に動画制作が出来ること		
実務経験教員の経歴	ご当地アイドルのイベント企画の実施、配信スタッフ				

科目名		照明				
担当教員		新潟照明技研株式会社 五味澤 和宏		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数	48
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)		安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎1 機材について			舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化			機材の名称、使い方と安全な作業について		
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類			各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識			図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り			吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編			オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。		
7	照明基礎7 電気基礎 応用編			灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）		
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方			図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
9	照明基礎9 前期復習（テスト）			前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい			休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
11	照明基礎11 演目とイメージ			演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン			音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
13	照明基礎13 芝居などの効果演出			演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材			演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
15	照明基礎15 プランニングまとめ			照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
16	照明基礎16 基礎のまとめ			照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴		新潟照明技研株式会社に所属する現役の照明家				

科目名	音響				
担当教員	株式会社サウンドエイト長谷川 辰也		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ		映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ		音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ		録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ		ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ		スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ		アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ		アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
9	音響基礎実習Ⅸ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
10	音響基礎実習Ⅹ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
11	音響基礎実習Ⅺ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
12	音響基礎実習Ⅻ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
13	音響仕上げ実習Ⅰ		ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ		ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		制作				
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントが作られる仕組みを学ぶ 2. イベント運営を学ぶ 3. 自主企画イベントを行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	イベント企画導入Ⅰ			イベントを組む上での必要な考え方		
2	イベント企画導入Ⅱ			イベントに必要な人材や役割を理解する		
3	イベント企画Ⅰ			公演時に必要な役割と準備		
4	イベント企画Ⅱ			企画書作成に関する基礎知識		
5	イベント企画Ⅲ			演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	イベント企画Ⅳ			いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	イベント企画Ⅴ			様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	イベント企画Ⅵ			アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	イベント企画Ⅶ			仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）		
10	イベント企画Ⅷ			イベント論 1 公演目的と意義		
11	イベント企画Ⅸ			イベント論 2 地域交流（イベント）		
12	イベント企画Ⅹ			イベント論 3 多種多様なイベント形態		
13	イベント企画Ⅺ			出演者やスタッフの動きを考える		
14	イベント企画Ⅻ			出演者のタイムスケジュールについて		
15	イベント企画ⅫⅢ			スタッフ進行表について		
16	総括			実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、イベントの企画を行う事		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて27年の指導、MBAホルダー				

科目名	演出				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 演劇及び映像での効果的な表現について学ぶ 2. 俳優による演技及び歌唱などの表現方法について学ぶ 3. シナリオを読み、俳優や映像における道具や音楽を用いた表現を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	短い台本を使い、役者や状況、物語を分かりやすく表現（発表）する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演出概論 1		資料 演出家について、仕事の内容と役割		
2	演出概論 2		資料 映像表現での監督・編集と演出について		
3	演出概論 3		資料 求められる演出家		
4	映像演出と俳優 1		参考台本使用。台詞について 1		
5	映像演出と俳優 2		参考台本使用。台詞について 2		
6	映像演出と俳優 3		参考台本使用。美術などの設定 1		
7	映像演出と俳優 4		参考台本使用。美術などの設定 2		
8	前期 まとめ		映像での表現についてのまとめ		
9	効果的な表現 1		映像資料を使っでの研究 1		
10	効果的な表現 2		映像資料を使っでの研究 2		
11	効果的な表現 3		台本を使用しての実技を交えた演習 1		
12	効果的な表現 4		台本を使用しての実技を交えた演習 2		
13	俳優を使った演出（実習） 1		実技を行いながらの発表 準備 1		
14	俳優を使った演出（実習） 2		実技を行いながらの発表 準備 2		
15	俳優を使った演出（実習） 3		発表 各班ごと 5分～10分		
16	後期まとめ		演出に関する発表後、評価を交えた意見交換。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			集団での作業が行われる現場でのリーダーであることの難しさや、やりがいを学ぶこと。コミュニケーション力の重要性や作品に対する意欲が、そのまま全体に影響が出るということを理解する。		
実務経験教員の経歴	演劇指導、イベントなど指導者として、15年以上の経験を持つ				